

（付録1）板状試験片の絞りに関して

米国の試験法規格であるASTM E8「Standard Test Methods for Tension Testing of Metallic Materials」の7.12 Reduction of Area に角断面試験片の絞りに関する記述があり、角断面ではコーナー部で変形拘束が生じるとされている。

また、絞りを要求値としている規格はあまり見られないが、ASTM A 514 では最小絞り要求値が棒状試験片では50%であるのに対し、板状では40%となっており、また、ASTM A 517 では棒状で45%に対し、板状は35%となっており、いずれも、板状が10%低い値を要求されている。すなわち、絞りに関しては、丸棒断面に比較し、板状断面では10%程低くなると想定されることに基づいていると考えられる。

よって、本報告での絞りに関し、試験片による差は妥当な差であると言える。

（なお、JIS においては絞りの測定は円形断面の試験片を用いるとなっており、角断面の絞りは規定されていない。しかし、一部の圧力容器用鋼材に絞り要求値があり、絞りは10号試験片（棒状）で求めることを基本としているが、一部に1A号（板状）を用いることも容認されており、その場合は、5%低い値を要求値としている。ASTM と比べ、差は小さくなっている。）